

# ダイヤルアップ(PPP)接続手順について(Windows95 版、Macintosh 版)

Windows95 版：情報処理センター 江藤 博文  
etoh@cc.saga-u.ac.jp  
Macintosh 版：情報処理センター 小野 隆久  
onot@cc.saga-u.ac.jp

## 1.PPP 接続の概要

情報処理センターでは、ユーザーからの強い要望により学外からの電話回線によるダイヤルアップ(PPP [Point to Point Protocol]) 接続サービスを12月よりテスト運用を開始し4月から本稼働を始めました。

PPP 接続は、主にインターネット接続サービスを行っている民間のプロバイダが使用している通信手順で、インターネットでの標準プロトコルTCP/IP による通信ができます。

学外(附属施設、自宅、出張先など)からPPP 接続を行うと学内LAN の利用環境が、そのまま学外から利用できるため、電子メール、電子ニュース、WWW、ftp などの利用がたいへん便利になります。

PPP 接続ができる電話回線の電話番号は、28-8104、28-8105、28-8106、28-8107、28-8108 (市外局番0952 以外の地域からは市外局番0952 を付ける) の5 回線で、通信速度は最高速度28.8Kbps まで対応しています。

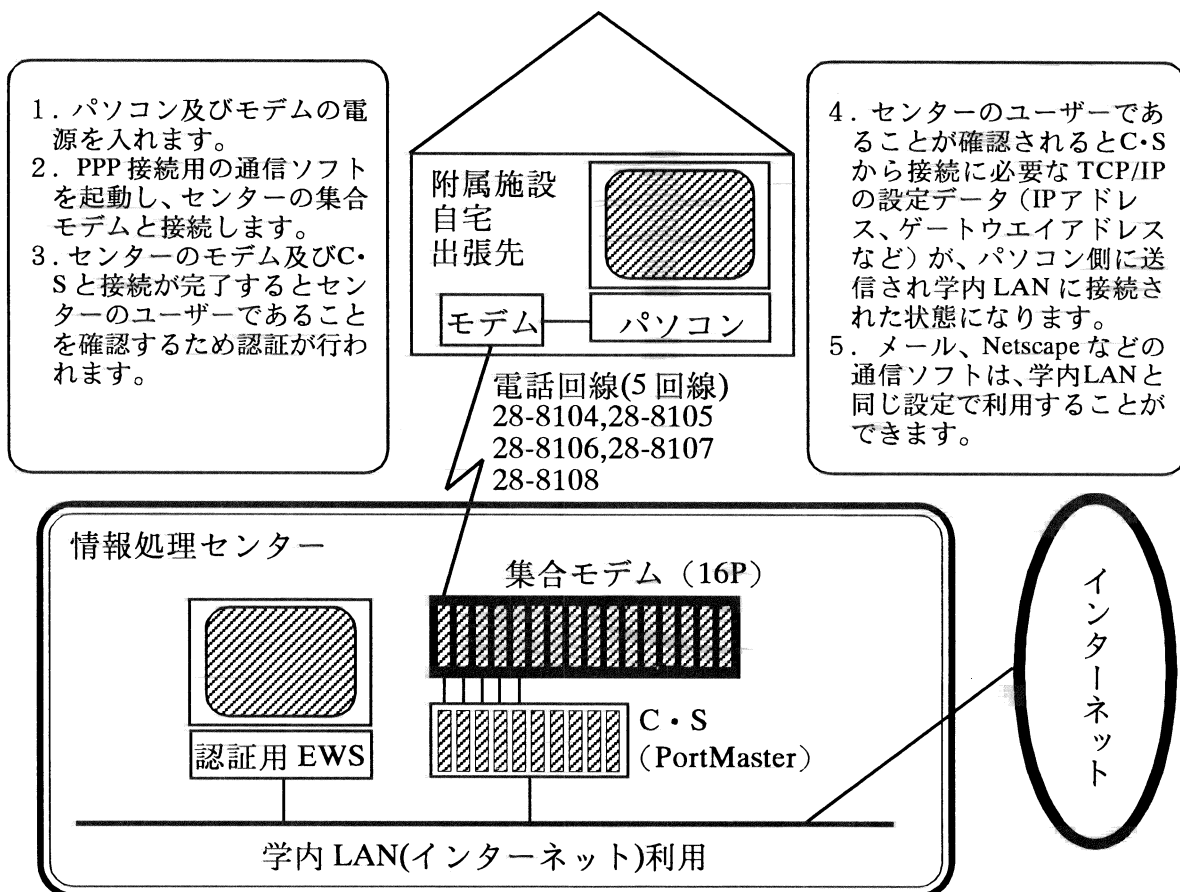
このPPP 接続を行うためには、下記のような準備が必要になります。

1. 情報処理センターの「**計算機利用申請書**」を提出し、ユーザー名とパスワードを取得すること。  
既に情報処理センターのユーザー名とパスワードを取得されているユーザーは必要ありません。
2. 通信速度28.8Kbps (以上) まで対応したモデムを準備すること。
3. PPP 接続のためのTCP/IP とPPP 接続用の基本通信ソフトを準備すること。

この基本通信ソフトは、Windows95 搭載モデルのパソコンでは標準でインストールされていますが、Macintosh ではインターネット対応機種を除いて標準でインストールされていない場合がありますので、各自準備して下さい。

### 1-1.PPP 接続のためのハードウェアの構成 (構成図を参照)

センター側のハードウェアは、電話回線5 回線、16 回線まで増設できる集合モデム、10 ポートまで対応したC・S (コミュニケーション・サーバー)、認証用のEWS の構成となっています。ユーザー側のハードウェアは、PPP 接続用の基本通信ソフトと各種通信ソフトがインストールされたパソコン、モデム、電話回線の構成となります。



## 1-2. パソコンについて

Windows95 搭載モデルのパソコンや最新の Macintosh(Performa シリーズなど)の中には、標準で内臓モデムが搭載されている機種がありますので、必ず付属のマニュアルを参照しパソコンのハードウェアの構成を確認して下さい。また、MS/DOS、Windows3.1 の OS で動いているパソコンの場合は、PPP 接続での利用はソフト的に難しいので、OS を Windows95 にバージョンアップすることを推奨します。

新規にパソコンを購入しようと考えている方は、インターネット接続対応モデル(内臓モデム搭載機種、インターネット接続用通信ソフトインストール済み)を選ぶことをお勧めします。

### (1) デスクトップパソコン用のモデムについて

内臓モデムが搭載されていない機種の場合には、パソコンの拡張スロットに搭載できるモデムボードまたはモデム機を購入する必要があります。モデムボードの場合は、機種によって拡張スロットの形状が異なりますので、付属のマニュアル等でスロットの種類を必ず確認しパソコンの機種に合わせて購入して下さい。モデム機の場合は、Windows95 搭載機の NECPC98 シリーズ、DOS/V 互換機、MacOS 搭載機の 3 種類のパソコンでは、モデム機の付属ソフトやパソコンとモデム機を接続するケーブルなどが異なりますので、必ずパソコンの機種に合わせて購入して下さい。

### (2) ノート型パソコン用のモデムについて

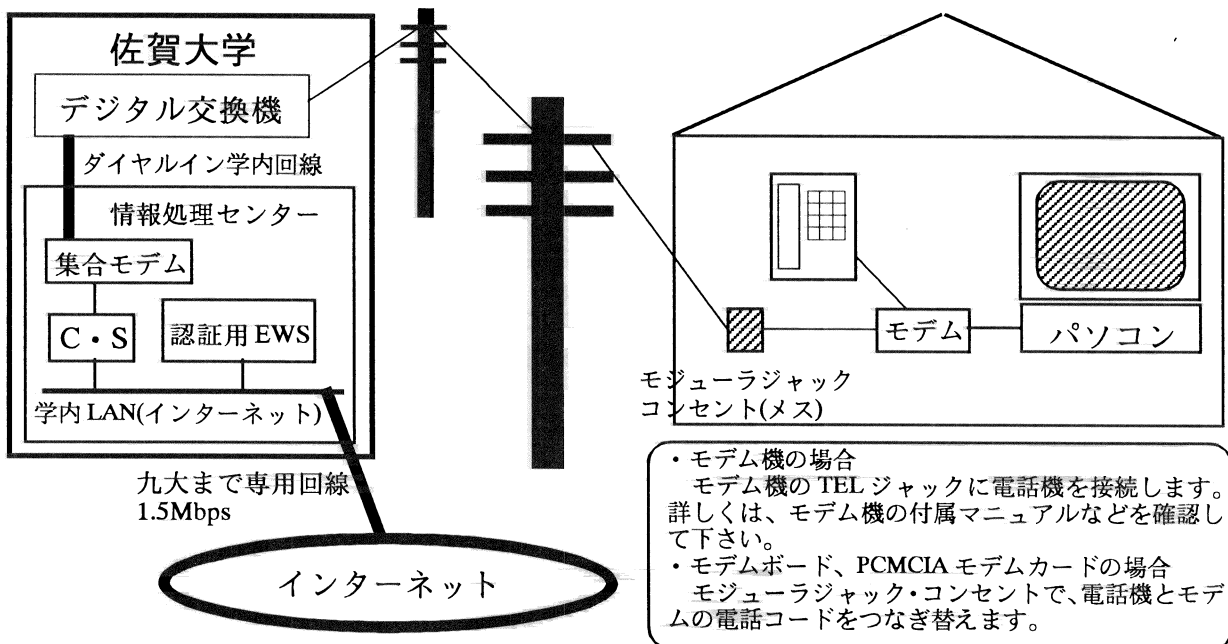
ノート型パソコンで接続したいユーザーは、付属のマニュアル等で下記の項目についてハードウェアの構成を調べて下さい。

1. 内臓モデム搭載機種であるか。(この場合は、モデムを購入する必要はありません。)
2. 内臓モデム用のスロットが、特別に用意された機種であるか。
3. PCMCIA カードスロットが、用意された機種であるか。
4. PCMCIA カードスロットが、TYP1 又は TYP2 のどちらの規格を採用しているか。

上記の項目を調べた上で、内臓モデムボード又は PCMCIA カードモデムを購入します。また、内臓モデム用のスロット及び PCMCIA カードスロットが用意されていない機種の場合は、モデム機を購入することになりますが、パソコンとモデム機を接続するケーブルのパソコン側のコネクタの形状が、デスクトップ型とノート型では違う場合もありますので、必ずパソコンの機種に合わせて購入して下さい。

## 1-3. 電話線について

モデムと電話線をつなぐ場合、自宅の電話線がモジュラジャック・コンセント方式になっていなければ接続することができません。黒電話など電話機に電話線が直接つながっている場合は、NTT に依頼しモジュラジャック・コンセントの取り付けと電話機の電話コードをモジュラジャック式に変える工事(有料)が必要となります。その場合、電話線は電話機とパソコンで併用することになりますので、モジュラジャック・コンセント(メス)の取り付け場所には注意して下さい。



## 2. PPP 接続利用のマナー

PPP 接続で学内 LAN 及びインターネットを利用する場合は、必ず下記のことを守って下さい。

1. 自分のユーザー名、パスワードを他人に教えないこと。
2. 自分のユーザー名、パスワードで他人に使わせないこと。
3. 回線数が少ないので連続して1時間以上の利用を控えること。
4. 利用が終了したら回線が切れていることを必ず確認すること。